神戸新聞

平成31年1月18日（金）掲載

その時への備え 万全に

阪神・淡路大震災の発生から丸24年となった17日、北播磨の小中学校や幼稚園も防災学習や避難訓練などを行った。子どもたちは震災の記憶を受け継ぐとともに、いつ起こるか分からない災害に備える大切さを学んだ。

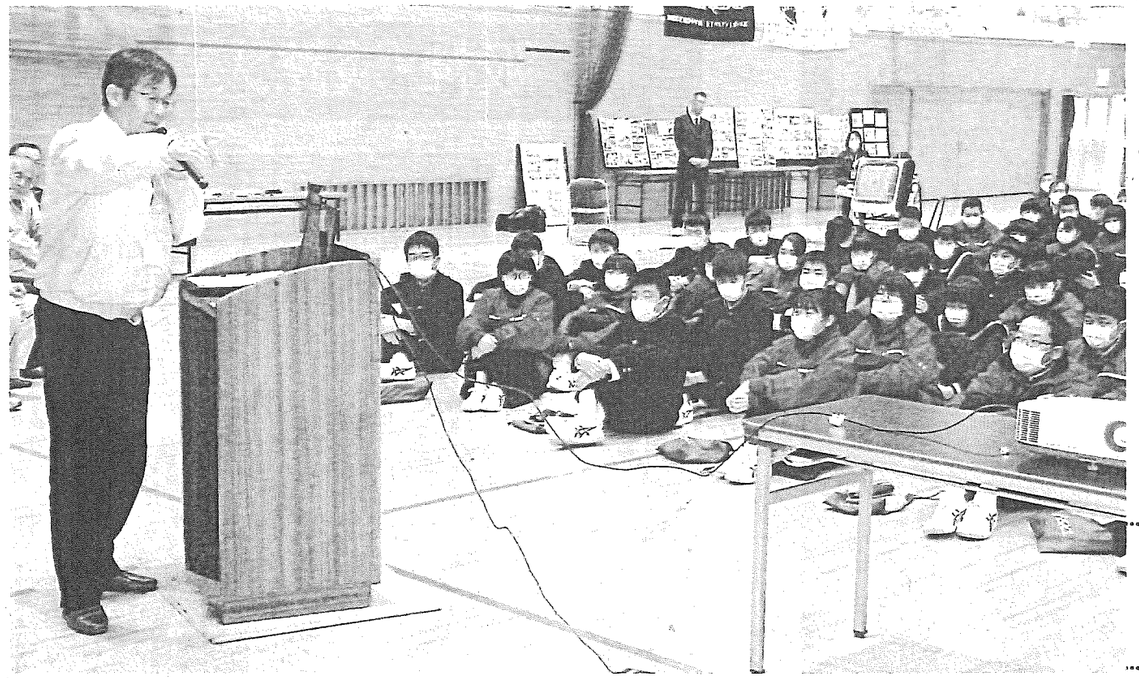
阪神・淡路大震災24年

東日本で活動のボランティア講演

「中学生は大切な戦力」

加西・善防中

○…加西市両月町の善防中学校（全校生徒156人）で行われた防災学習では、東日本大震災などの被災地で活動するNPO法人「災害ボランティア加西らかん」のメンバーが講師を務めた。



防災用品などについて吉田正和事務局長の話を聞く生徒たち＝善防中

理事長の村上克也さん(76)は西宮市内のマンションで震災を体験。ギシギシとコンクリートが割れるような音が辺りに響いたといい「マンションが崩れて死ぬのかと覚悟した」と振り返った。東日本大震災で岩手県釜石市の中学生たちが小学生たちを連れて避難し、津波から守った「釜石の奇跡」などに触れ「中学生は、災害が起きたときの大切な戦力。お年寄りや幼い子どもを守ってほしい」と訴えた。

続いて事務局長の吉田正和さん(55)が、避難時に役立つ物などを説明。缶詰やレトルト食品、災害用浄水器などを展示し、生徒たちは興味深そうに手に取って見ていた。

2年梅野結貴さん(14)は「災害で1人が亡くなれば、悲しむ人はたくさんいると思う。中学生にもできることがあると知ったので、被害を減らせるように考えたい」と話していた。

（森　信弘）